

立命館大学 創思館
1階 カンファレンスルーム

参加無料・予約不要

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/GCOE/culturalasset/>

〔主催〕 文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学) 立命館大学アート・リサーチセンター

〔問い合わせ〕 立命館大学 研究部 人文社会リサーチオフィス内
アート・リサーチセンター事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

TEL 075-466-3411 (平日9時～17時30分)

arc-jimu@arc.ritsumei.ac.jp

2010年4月30日(金) 13:00-18:00

〈文化財の過去そして現在 ―作る人、伝える人〉

〔講演〕 吉岡幸雄 (染織家・染司よしおか当主) 「伝統色と文化財」

〔実演〕 和菓子製作: (株) 虎屋

〔懇親会〕 会場: 立命館大学末川記念会館 レストランカラム

《一般》5,000円 《学生》2,000円

5月1日(土) 9:30-18:00

〈文化財の現在そして未来 ―伝える人、守る人〉

〔講演〕 Joe D. Price (日本近世絵画コレクター)

「The Man Who Painted Light (光を描いた男)」



文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)

立命館大学アート・リサーチセンター ◆ 国際シンポジウム

文化財の現在 過去・未来

THE PAST, PRESENT,
AND FUTURE OF
CULTURAL ASSET

—デジタルと
アナログ共存の意義—

人類の文化活動の所産である文化財は、有形・無形を問わず多様であり、多くの人々の手によって作られ、守られ、伝えられてきた。本拠点が推進している日本文化に関わる文化財のデジタルアーカイブ化とデータベース構築は、最新の技術を駆使した文化財保護事業の先駆けであり、現在多くの機関が同様の活動を行っている。しかし、デジタル技術を用いた文化財保護・継承が隆盛となっている中で、逆に現在も昔ながらの技術を用い、アナログにこだわって、文化財を保護・継承している伝承者が数多く存在する。

本シンポジウムは、文化を継承する人間を含めたすべての事象を「文化財」として捉える。そして、デジタルとアナログ技術に携わる現在活動中の文化の作り手、担い手、使い手たちを一堂に招き、それぞれの立場から文化財の現状をお話し頂きながら、文化財保護・継承にまつわる問題点を引き出し、デジタルとアナログが共存していくためにどのような方策を取っていくべきかを検討しながら議論することを目的とする。

Timetable

4月30日(金) 13:00-18:00

〈文化財の過去そして現在 一作の人、伝える人〉

- 13:00 受付開始
13:30 ご挨拶：松本郁代
／横浜市立大学准教授・本拠点事業推進担当者
13:40 講演：吉岡幸雄／染織家・染司よしおか当主
質疑応答（20分）
15:00 発表：中山圭子／(株)虎屋文庫研究主幹
質疑応答（15分）
16:00 実演 和菓子製作：(株)虎屋 増戸 稔
17:00 閉会
18:00 懇親会（レストランカラム）※

5月1日(土) 9:30-18:00

〈文化財の現在そして未来 一伝える人、守る人〉

- 9:30 開場
10:00 発表：関地久治／(有)墨仙堂社長
質疑応答（15分）
11:00 発表：山本 修／(株)便利堂コロタイプ工房長
質疑応答（15分）
12:00 昼食休憩
13:30 講演：Joe D. Price／日本近世絵画コレクター
質疑応答（20分）
14:50 発表：赤間 亮
／立命館大学大学院文学研究科教授・本拠点リーダー
質疑応答（10分）
15:50 発表：彬子女王／本拠点ポストドクトラルフェロー
質疑応答（15分）
16:20 パネルディスカッション
17:50 ご挨拶：赤間 亮
18:00 閉会

※懇親会は予約が必要になります。出席される方は、下記問い合わせ先にお申し込み下さい。



〔主催〕文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学) 立命館大学アート・リサーチセンター
〔問い合わせ〕立命館大学 研究部 人文社会リサーチオフィス内アート・リサーチセンター事務局
〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
TEL 075-465-8476(平日9時～17時30分)
arc-jimu@arc.ritsumei.ac.jp

Profile

吉岡幸雄

京都市に生まれる。早稲田大学第一文学部を卒業後、昭和48年、美術工芸図書出版「紫紅社」を設立。1988年、生家「染司よしおか」五代目当主を嗣ぎ、染師福田伝士氏と日本の伝統色の再現に取り組むとともに、国内・海外にて幅広く講演を行っている。主な著書に『源氏の色辞典』『日本の色辞典』『京都町家 色と光と風のデザイン』など多数。

中山圭子

東京芸術大学美術学部芸術学科卒業。和菓子のデザインのおもしろさにひかれて、卒論に「和菓子の意匠」を選ぶ。現在、虎屋の和菓子資料室、虎屋文庫に勤務。和菓子関係の展示業務や、機関誌「和菓子」の編集、資料整理などの仕事をしている。著書に『和菓子夢のかたち』(東京書籍)『和菓子ものがたり』(朝日文庫)『事典 和菓子の世界』(岩波書店)などがある。

増戸 稔

1992年株式会社虎屋入社。入社以来18年間東京工場にて製造職に携わる。生菓子を中心に、焼菓子製造にも従事。製菓衛生師(1994年)、製菓技能士1級(2003年)を取得し、又、海外店研修などの経験もある。2009年2月から、社長室広報課勤務。近隣小学校への出前授業や和菓子教室の講師など、和菓子の魅力を子供から大人まで広く紹介することにつとめている。

◎とらやHP <http://www.toraya-group.co.jp/>

関地久治

和歌山市出身。1968年、岡墨光堂に入社。1982年同社を退社後、同年5月、墨仙堂を設立。1991年5月には有限会社墨仙堂を設立し、代表取締役役に就任。現在に至る。修復実績は国宝「一字蓮台法華経 卷子装」、国宝「婦女遊楽図 屏風装」、県指「神猫図 軸装」など、他多数。

山本 修

(株)便利堂コロタイプ工房長。1960年京都生まれ。平安高校卒業後1979年便利堂入社。以来31年間コロタイプ一筋に従事。正倉院文書複製をはじめ、数多くの文化財の複製を手がける。複製を通して文化財保存や研究に微力ながら貢献できることに誇りと喜びを感じる。現在は、伊藤若冲「動植綵絵」全三十幅の複製に取り組んでいる。

Joe D. Price／ジョー・D・プライス

1929年アメリカ、オクラホマ州に生まれる。機械工学を専攻し、52年オクラホマ大学卒業。53年、建築家のフランク・ロイド・ライトと訪れたニューヨークで伊藤若冲の絵と衝撃的な出会いを果たす。66年以降は、エツコ夫人と共に収集を継続し、80年には財団「心遠館」を設立。1988年勲章受賞。2006年国際交流基金賞、2007年日米協会国際市民賞受賞。

赤間 亮

早稲田大学演劇博物館を経て、立命館大学文学部。2007年から、京都演劇プロジェクトを開始し、2009年アート・リサーチセンターの設立とともに、片山家との学術協定を結び、古映像の復元に取り組む。現在、グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」拠点リーダー。アート・リサーチセンター長。

彬子女王

2010年オックスフォード大学博士課程修了。2009年10月よりグローバルCOE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」PDとして勤務。現在の研究テーマは、在外日本美術コレクションを通して西洋人の日本美術観の変遷や、近代における京都観の誕生など。主要論文に、「標本から美術へ—19世紀の日本美術蒐集、特にアンダーソン・コレクションの意義について」『國華』2009年など。

